

## 小学校 音楽科 部会

部会長名 大任小学校 校長 城石 俊弘

実践者名 伊方小学校 教諭 太田 優子

### 1 研究主題

音楽を感じ取り、自分なりの思いや意図をもって表現できる音楽科学習指導  
～異学年交流活動と振り返りの場の設定を通して～

### 2 主題設定の理由

音楽科教育の目標は、子どもたちに「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「音楽活動の基礎的能力」を養うことであり、常に子どもたちの情意面と能力面とをかかわらせながら指導に当たることが重要である。

そのためには、日常の授業において、子どもたちに音楽を通して価値のあるものに気づかせ、感性をはぐくみ、生活を明るく豊かにしていこうとする心情を育てる指導が必要となってくる。

しかし、私たちの授業を振り返ったとき、次のような指導上の課題が見られることが多い。

- (1) 教師のもつ意図にしたがって知識や技能のみを指導することが多く、子どもは教師の指示のまま表現させられるという、教師主導型の授業になりがちである。
- (2) 教師の関心、子どもの関心が技能面の習得にだけ向いていることが多い。そのため、音楽活動に対して成就感や満足感を味わわせるまでに至っていない。

学習指導要領では、「感性を働かせ、思考・判断し表現する活動」が重視され、表現及び鑑賞の各活動の支えとなるものとして、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること」が示されるなど、音や音楽を知覚し、感受する力をより一層高めていく指導が求められている。

また、音楽科に係る福岡県の重点目標として、「児童生徒一人一人が様々な音や音楽とかかわり、思いや意図をもって表現したり味わったりする力の育成」が掲げられ、具体的な学習指導の改善として、「表現及び鑑賞の各活動と〔共通事項〕との関連を図り、音楽のよさや美しさを味わうことのできる指導の工夫」が示されている。

そこで、次のような授業改善の視点が必要であると考えます。

- (1) 子どもたちが楽曲の要素や仕組みを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取る（感受する）という一連の過程を重視すること。
- (2) 音楽を感受することを軸として表現と鑑賞の関連を図ること。
- (3) 子どもたちに自分の音楽活動に対して、成就感や満足感を味わわせることができるようにすること。

このような課題意識のもと、本主題を設定し、究明していくこととした。

### 3 主題の意味

#### (1)「音楽を感じ取り」とは

子どもたちが楽曲の「要素」や「仕組み」を聴き取り、それらが生み出す面白さや特質、雰囲気などを感じ取ることである。

学習指導要領音楽科改訂の趣旨の一つとして「表現と鑑賞の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。」と示している。ここでいう「知覚」とは、音楽を形づくっている要素を聴き取って、音や音楽を判別し、意識することであり、「感受」とは、音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることである。

この「知覚・感受して思考する力」は、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の各活動を支えるものであり、この力を子どもたちに身につけさせることが、音楽科では特に大切である。

#### (2)「自分なりの思いや意図をもって表現ができる」とは

楽曲から受けた直感的なイメージを、音楽を形づくっている要素のかかわり合いと関連づけて感じ取らせ、表現を工夫するための視点を明らかにし、表現に対する自分の明確な考えや意図をもって歌ったり演奏したりすることである。

#### (3)「異学年交流活動と振り返りの場の設定」とは

同年齢集団だけでなく、異年齢集団との演奏活動をし、互いの良さを感じ取り、感じ取ったことを自分の言葉で表現することである。また、教師主導で音楽を作り上げていくのではなく、鑑賞したことの交流をもとに自らの演奏活動を振り返り、さらに表現の工夫をし、次の活動への意欲を高める場をもつことである。

### 4 研究の目標

音楽科学習において、音楽を感じ取り、自分なりの思いや意図をもって表現できる子どもを育てるために、表現と鑑賞の関連を図った学習指導の在り方を明らかにする。

### 5 研究仮説

全校合唱奏をするために、「音楽を感じ取ること」を軸とした表現と鑑賞の関連を図りながら、異学年で互いの考えを交流したり自らの音楽活動を振り返ったりする場を設定することによって、次のような子どもの姿が期待できると考える。

- 鑑賞活動で知覚・感受したことが、自分なりの表現の可能性に気づき・広がりとなり、音楽を意味づけ、自分なりの思いや意図をもって表現を工夫できる子ども。
- 表現の工夫を経験したことによって、音楽のよさや特質をより深く感じることであったり、次の音楽活動への期待や意欲を高めたりすることができる子ども。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材名 いろいろなひびきを味わおう「あいあい」

(2) 題材の目標及び指導計画

題材	「あいあい」		総時数	6時間	時期	6月
題 材 の 目 標		低学年	中学年	高学年		
	関心・意欲・態度	友達の歌声や楽器の音に関心をもって、互いに聴き合いながら表現する活動に進んで取り組もうとしている。	楽器の音色や旋律の特徴を感じ取ったり、表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。	歌声や楽器の音色、重なり合ういろいろな響きを味わって聴いたり表現したりする学習に主体的に取り組もうとしている。		
	音楽表現の創意工夫	互いの声や音を聴き合い、交互に歌うことのおもしろさを感じ取って歌い方を工夫したり、歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じて、身体表現を工夫している。	音の特徴を感じ取り、自分たちのイメージに合うような表現で歌い方や演奏の仕方を工夫している。	歌声や楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、歌詞の内容を生かした演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについての思いをもっている。		
	音楽表現の技能	友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れにのって歌ったり演奏したりすることができる。	音の特徴などを生かして、自分たちのイメージにあった演奏をすることができる。	歌声の響きや楽器の音色に気をつけ、それらが重なり合う響きを互いに聴き合いながら、パートの役割を生かして演奏することができる。		
	鑑賞の能力	楽曲の特徴から、想像したことや気付いたことを言葉で表して、楽曲の楽しさに気付いて聴いている。	楽器の音色や旋律に気をつけて聴き、演奏のよさを味わいながら聴いている。	楽器の音色やその組み合わせによってもたらされる曲想や響きの変化を味わいながら聴いている。		
時	具体的な目標		学習活動・内容		指導上の留意点 (援助・支援)	
第1時	全校合唱奏への意欲をもつとともに、「あいあい」の曲全体の感じをつかみ、楽しく歌うことが		○指導用CDを聴いたり、歌詞の内容を読んだりして、曲のイメージを話し合う。		○拍の流れにのって、リズムや歌詞の言葉に気をつけて歌うようにする。	

	できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生の合唱奏 CD を聴いて、全校合唱奏のイメージをもつ。</li> <li>○ 旋律の歌詞唱をする。</li> </ul>	
第2・3時	曲の感じをつかんで主旋律を演奏したり、主旋律をよく聴いてリズム楽器の演奏したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主旋律の歌詞唱をする。 (1～3年)</li> <li>○ 曲のイメージにあった身体表現を工夫する。 (1年(6年))</li> <li>○ 主旋律をリコーダーで演奏する。(4、5年)</li> <li>○ 副次的な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏する。 (3年)</li> <li>○ リズム楽器を演奏する。 (2年)</li> <li>○ 楽器のパート練習をする。 (6年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 声の出し方や表情を工夫して歌ったり体を動かしたりするようにする。</li> <li>○ リコーダーで、ドやレなど低い音を演奏するときは、息の使い方に気をつけて練習するようにさせる。</li> <li>○ 副次的な旋律は主旋律をよく聴いて演奏するようにさせる。</li> <li>○ 主旋律や伴奏をよく聴いて拍打ちをするようにさせる。</li> <li>○ 楽器の音色や響きや他の楽器とのひびきを感じ取らせながら練習するようにさせる。</li> </ul>
第4・5時	互いの演奏を聴き合いながら、兄弟学年で合唱奏をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兄弟学年で合唱奏をする。</li> <li>○ 互いに聴き合って気づいたことを発表する。</li> <li>○ 聴き合ったことを生かして演奏を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合唱奏で互いの演奏をしっかりと聴かせるために、演奏後に、互いの演奏についての意見交換をすることを伝える。</li> <li>○ 互いに発表を聴き意見交換することで、表現の幅を広げるようにする。</li> </ul>
第6時	声や音の重なり合う響きの美しさを感じ取って、歌ったり演奏したり聴いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兄弟学年で演奏をする。</li> <li>○ 他学年の演奏を聴く。</li> <li>○ 全校合唱奏をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達段階に応じた演奏を聴かせ、それぞれの声や音の響きの美しさを味わわせるようにする。</li> </ul>

7 指導の実際（4／6時間）

(1) 主眼

兄弟学年での演奏後に互いの意見を交流する活動を通して、自らの音楽活動を振り返り、表現に広がりをもって演奏することができる。

(2) 展開（1・6年）

学 習 活 動	指導上の留意点・評価（※）
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○ それぞれの学年の前時までの練習の成果を賞賛し、合唱奏への意欲をもたせる。</p>
<p>お互いの演奏を聴き合い、すばらしい合唱奏にしよう。</p>	
<p>2 合唱奏をする。</p> <p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が大きくてよかった。</li> <li>・上手だった。</li> </ul> <p>(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合うように元気な声で歌っていた。</li> <li>・踊りが大きくてよかった。</li> </ul>	<p>○ 歌声と楽器の音色が響き合うように、相手の学年の演奏を聴きながら、自分たちの演奏をするようにさせる。</p> <p>○ お互いに、気づいたことや感じたことを発表させる。</p>
<p>3 学年ごとに演奏をする。</p> <p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくたちがおどりやすいようにゆっくり演奏してくれていた。</li> <li>・いろいろな楽器で演奏していてすごかった。</li> </ul> <p>(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが元気な声で歌っていた。</li> <li>・歌詞に合うように、振りを工夫していた。</li> </ul>	<p>○ 合唱奏では、相手の音を意識して聴くことが苦手な児童がいるので、学年ごとに演奏を聴かせる。その後、お互いの学年が、どのような音色・旋律・リズムで演奏しているか、互いに聴き合わせ、意見交流をする。</p> <p>※ 曲の感じを感じ取りながら聴くことができる。</p>
<p>4 交流を元に、合唱奏をする。</p>	<p>○ お互いの意見を元に、自分たちの演奏をよりよくするためにはどこに気をつけたら良いかを考えさせて、再度合唱奏をさせる。</p> <p>※ 意見交流を元に、演奏の仕方を工夫している。</p>
<p>5 学習のまとめをし、次時の学習について知る。</p>	<p>○ 全校合唱奏に向けて、よいよ演奏にしていく意欲をもたせるようにする。</p>

### (3) 考察

#### 第1時

本単元の導入では、全学年でふれあい集会で「あいあい」の全校合唱奏をすることを伝えた。「あいあい」は、ほとんどの児童にとってなじみのある曲だったので、範唱用 CD を聴いたり、歌詞の内容を読んだりして曲のイメージをもたせるようにしたが、どの学年もすぐに歌詞を覚えて歌うことができていた。

また、1～5年生には6年生が演奏した「あいあい」のCD【写真1】を聴かせたことにより、範唱とは違う楽曲の雰囲気やリズムをつかませ、全校合唱奏への意欲をもたせることができた。



【写真1】

6年生が作ったCD

#### 第2・3時

各学年ごとに歌や楽器などの担当を割り振り、パートごとの楽譜を渡して学年ごとに練習をするようにした。【資料1】

- 1年生…歌と踊り
- 2年生…歌とカスタネット・タンブリン・すず
- 3年生…歌・鍵盤ハーモニカ
- 4年生…リコーダー
- 5年生…リコーダー
- 6年生…リコーダー・木琴・鉄琴・大太鼓・小太鼓・シンバル

【資料1】各学年に配布したパート譜

学年での練習は、各担任にまかせていたが、なじみのある曲なので、どの学年もスムーズに練習が進んだようだった。しかし、元気の良い楽曲なので、歌も楽器も覚えてしまうと、ただ音量が大きいだけというような乱暴な演奏になってしまうので、そうならないように各学年の担任に指導をお願いした。

6年生に関しては、リズムの主となる大太鼓・小太鼓はテンポを一定に保てるように、他の楽器は太鼓のリズムをしっかり聴いて合わせられるように練習していった。太鼓がきちんと拍をきざめるようになるまでは、合奏もばらばらだったが、太鼓がきちんと拍をとってたたけるようになると、他の楽器も太鼓を聴きながらテンポを合わせて合奏をすることができるようになった。

※1年生の踊りについては、6年生の総合的な学習のピアサポートの一つとして、別の時間に一緒に踊りを考える時間を設けている。

#### 第4・5時

1・6年、2・5年、3・4年を兄弟学年として、それぞれのパートを合わせる練習を行った。

まず、合唱奏をさせて、お互いの良いところや改善して欲しいところを発表し合わせた。合唱奏をしながらでも、相手の学年の演奏をしっかり聴くことができた児童もいたが、初めて一緒に演奏すると、緊張して相手の音まで意識して聴くことができていない児童の方が多かった。そこで、それぞれの学年ごとに練習の成果を兄弟学年に発表するようにした。そうすると、相手の音だけをしっかりと聴くことができるので、良さや改善点が見つけやすくなったようだった。【写真2】



【写真2】良いところを話し合う児童

さらに、互いの演奏を鑑賞した後に、それぞれの演奏についての意見交流を行った。下級生は上級生の演奏のすばらしさを感じ取ることができ、上級生は下級生の大きな声で一生懸命に歌う姿を感じ取ることができた。自分たちだけで演奏するだけでなく、異学年と一緒に合唱奏することによって、活動を楽しんでいると感じることができたようだった。また、異学年の友だちから「もっと音を大きくした方がよい」「おどっているように（演奏）した方がよい」と意見をもらったことを、教師からの一方的な指導による演奏になるのではなく、自分なりに思考・判断し、次の演奏時に「ここで、もう少し音を大きくしよう」「ここは弾むように演奏しよう」など、音の強弱や音色の響かせ方などの表現の工夫に生かすことができていた。

#### 第6時

全校集会「ふれあい集会」の中で、兄弟学年の発表から始まり最後には全校合唱奏へと広がっていく。保護者の参観もあり、子どもたちの中には緊張している姿が多く見られた。しかし、兄弟学年での練習で自信をつけていることもあり、2・5年生の発表、3・4年生の発表、1・6年生の発表とどれも堂々と演奏をしている子どもたちの姿を

見る事ができた。そして、最後の全校合唱奏では、どの学年も他の学年のすばらしい演奏に触れ、よりよい合唱奏にしようという意欲をもって、元気よく一生懸命に演奏しすばらしい発表となった。【写真3】



【写真3】全校合唱奏の様子

全校合唱奏後の6年生の児童の感想には、異学年で合唱奏の練習をしたことによってよりよい演奏をすることができたというものが多数あった。また、自分たちだけで合奏するのではなくて、低学年の歌やいろいろな楽器が合わさることによって、とても良い演奏になったことや楽しく合奏ができたという感想もあり、音楽のよさを深く感じたり、成就感を味わうことができたようだった。【資料2】

児童の感想より【資料2】

- 私の心に一番残ったのは、全校合唱奏です。みんなそれぞれちがうパートが合わさって、とても良い演奏になったと思います。
- 全校の息があって、きれいに発表できたのでうれしかったです。次するときもきれいに演奏したいです。
- どの学年もとても上手に演奏できていました。だからぼくたちも今まで練習したことを生かして演奏しました。みんなの音が合わさってとても心に残りました。

## 8 成果と今後の課題

- 成果
- 異学年で練習し、お互いの演奏を鑑賞することにより、音楽のよさや特質を感じることができた。また、お互いの演奏に対して意見交流をしたことにより、さらに表現を工夫しようとすることができた。
  - 異学年交流を通して全校合唱奏をしたことにより、成就感や満足感を味わうことができた。
  - 子どもたちになじみのある楽曲を用いたことで、自分なりの思いや意図をもって表現しようとし、練習をスムーズに進めることができた。

- 課題
- 総時数は6時間だが、楽器の演奏をする上では、2時間の練習では十分な演奏をすることができないので、時間外での練習が必要である。
  - 全校合唱奏だったので、題材を低学年のものから選んだ。合奏をしていく上では良かったが、高学年の鑑賞の評価基準と照らし合わせると、題材としてはあまふさわしいものではないと思うので、音楽科として全校合唱奏をすることの難しさを感じた。

◎参考文献

- 『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省 平成20年8月
- 『小学生の音楽 指導書研究編』教育芸術社 平成23年